

# 自治大卒業生の声②

自治大学校卒業生（第2部課程第185期）

小山市役所 森泉 幸枝

編集者注：本稿は、自治大学校における演習・講義の特長や卒業後の研修効果の発揮などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

## 1 プロローグ

自治大学校派遣研修のお話を市長から頂いたのは、暑さ突き刺す8月の処暑の頃でした。当市が送り出してきた自治大学校OB・OGのかんばせを思い浮かべ、その錚々たる面々と現在の活躍振りを考えると、若くして自治大学校に就学でき、後輩になれることは誉れ高いことではありますが、若さ故に押しなべて未熟であり、満足に修了できなければ妍醜瞭然であると思いました。しかしながら、「拔擢されたことはまたない光栄であり、須らく引き受けるべきである。」という激励も受け、忘我混沌のままお話をお引き受けしたことを覚えています。その後私を支えてくれたものは、入校通知にあった当研修の目的である“将来の幹部候補生に対して、政策形成能力、行政経営能力を身につけさせ、公務員としての使命感・管理者意識を涵養する”というフレーズです。将来にはまだ時間があり、その育成のための研修であると、気負いせずに臨むことにしました。

## 2 研修の概要

研修は基本法制研修と本研修から成りますが、基本法制研修については、今年度から選択制となり、e-ラーニングで事前学習が出来るようになりました。私は、自治体の職員研修で既に受講していることと、職場に居ながら学習できることから、e-ラーニングでの事前学習を選びました。また、本研修は、類似した講義をまとめることにより、各

種演習に重点を置くことで、研修期間を約2カ月間に集約させたものです。この研修計画改正により、長期間職場を空けることへの憂慮が軽減され、研修に参加しやすくなったと思います。

演習が主体となった研修は、①問題発見・解決能力、②政策立案能力、③プレゼンテーション能力、④マネジメント能力、⑤公共政策・行政経営に係る知識、⑥幹部候補生としての使命感の、6つの能力を段階的に習得できるように練られたカリキュラムでした。

各講義は、著名な大学教授や総務省OBを講師に迎え、国の最新の情報と基本方針を伺い、時代に合った政策を打ち出すための知識を得ることが出来ました。講師の熱弁に我々研修生も惹き付けられたものです。自治大学校に就学しなければ接点を持たない方々ですので、積極的に名刺交換・意見交換をさせていただきました。一介の自治体職員ですから知らないこと・及ばないことがあるのは当然で、それらを知るために研修に来ているのだと、気後れせず何事も動じずに話を伺いに行けたと思います。

事例演習は、ケーススタディを通して問題発見と行政課題の解決のための考察が出来るようにテーマが設定されていました。現場の実務で活用できる内容となっています。他自治体職員と共通の事例に取り組むことにより、貴重な情報交換の場ともなりました。多くの自治体が抱える人口減少、少子高齢化、税収入の先細りなど、地方都市の深刻な悩みを伺うと、いかに当市が条件に恵まれ、有望な市であるかということが解り、改めて見直す良い機会でもありました。

政策立案演習は、実際に首長に提案することを想定し、自主的にテーマを設定して、

自治体の現状把握、課題の発見・解決と、具体的な政策を打ち出すためのグループ演習です。自治大学校の研修において、その醍醐味は何を差し置いてもこの政策立案演習にあります。演習時間の配分時数からも、その重要度が解ります。資料収集や調査研究、データ分析、現行制度の検討を通して、実現可能性のある政策内容を求められました。私の班は所属自治体も寮階も散けており、特有の地域色や寮階による偏ったグルーピングもなく、それ故の一つにまとまることが出来たと思います。

### 3 恵まれた施設環境

長期間の研修において、施設環境の与える影響は大変大きなものであります。寮の部屋は、宿泊研修を快適に過ごすことのできる個室で、コンパクトながらも収納は十二分にあり、特に備え付けられた本棚はテキストや資料、書籍等を多く並べられました。一人一人にパソコンが与えられ、軽量でポータブルであるので自主討議室や図書室でも報告書等の作成が出来ます。また、棟内の演習室等ではWi-Fi環境も整っており、インターネットに接続して情報収集をしたり、研修生や職場とメールで連絡を取りあうことも可能です。

図書室では、朝は新聞各紙を読み比べ、日中の空いた時間に新刊書籍を手に取り、夜は志を同じくする仲間と共に遅くまで政策立案の報告書や発表用のパワーポイントデータを仕上げました。地方行政に必要とされる書籍は常に最新のものが書架に入り、また、先輩方が編纂した政策立案演習報告書が並ぶ姿は雄渾であり、自治大学校の歴史が感じられます。先輩方がこの席に座ったかも知れない、この書籍を読んだかも知れない、仲間と語り合ったかも知れない、そう思うと、図書室は過去と未来をつなぐ結節点であると言えます。各種報告書の締め切りに追われ、本研修の目的にあった「涵養」

という言葉は一体何であったのかと、巨海で龍魚諸鬼の難に遭う思いもしましたが、それらの演習を通じて、互いに手を差し伸べ、助け合い、励まし合った仲間が出来ました。学び舎を後にし、西へ東へと遠く離れてしまった仲間を、渴仰してやみません。図書室は、そのような思い出の場所でもあります。

### 4 エピローグ

自治大学校から戻った翌日に異動内示があり、この4月から総合政策課と渡良瀬遊水地ラムサール推進課を兼務しています。数奇な運命により、歴代自治大学校OB・OGが上司に名を連ね、各機関との連携事業や総合計画、新たな政策を打ち出しています。自治大学校で頂いた資料、使用したテキスト、教官の御言葉、仲間からのアドバイスなど、これらのものが色褪せる暇もなく現在の業務で役立っています。そこに、私自身のこれまでの異動部署の経験が累加されて、結実していると実感しています。これから自治大学校に就学する後輩たちへ伝えたいことは、常に進取の気性であれということです。今や地方自治体を取り巻く環境は、時代の流れ・変化のスピードが加速し、その潮流と多様化する住民ニーズを的確に捉えて、考え方や手法をシフトチェンジしていかなければなりません。アンテナを高く張って、前傾姿勢でいることです。自治大学校で得た経験は必ず実り、播種します。皆様自身が新種の地方公務員となって、郷土の栄のために牽引して行ってください。

結びにあたり、指導教官をはじめとする講師の皆様、充実した学校生活を提供して下さった学校職員の皆様、研修成果の向上のために骨を折ってくれた自治会役員の皆様、共に支え合い楽しい時間を過ごした寮階の皆様、心から感謝申し上げます。“平成最後の”第2部課程第185期生を代表し、卒業生からのメッセージといたします。